

14時30分解禁

2023年5月 全国百貨店売上高概況

2023年6月23日

I. 概況

1. 売上高総額	4, 111 億円余
2. 前年同月比（増減率）	6.3%（店舗数調整後／15か月連続プラス）
3. 調査対象百貨店	70社 181店（2023年4月対比±0店）
4. 総店舗面積	4,745,275㎡（前年同月比：-3.0%）
5. 総従業員数	52,351人（前年同月比：-6.9%）
6. 3か月移動平均値 （店舗数調整後）	10-12月 6.2%、11-1月 7.1%、12-2月 11.2%、 1-3月 14.6%、2-4月 12.4%、3-5月 8.3%

[参考] 2022年5月の売上高増減率は57.8%（店舗数調整後）

【特徴】

5月の売上高は6.3%増、入店客数は4.5%増と、共に15か月連続のプラスとなった。新型コロナウイルス移行による外出機運の高まりで人流が増加し、旅行やオケージョン、ビジネス需要などから、衣料品や身のまわり品、化粧品が好調に推移した。高伸が続くインバウンドも売上を押し上げた。各社が企画した物産展や催事は活況で、GWを中心に多くのお客様で賑わい、売上と集客に寄与した。コロナ前の2019年比では売上高4.9%減、入店客数17.9%減と、それぞれ前月より改善（売上高1.4ポイント、入店客数1.8ポイント）しており、業績回復は一段と進んでいる。

顧客別では、インバウンドが円安と入国制限の終了などを背景に、249.1%増（217億円/14か月連続/シェア5.3%）と、前月より39.2ポイント上昇し、2019年比では32.2%減と前月より7.8ポイント改善した。国内市場も2.3%増（15か月連続/シェア94.7%）と好調に推移しており、2019年比は2.7%減と0.7ポイント改善している。

地区別では、インバウンド効果や株高などから、都市（10都市/8.5%増）が7地区で前年実績をクリアし20か月連続プラスとなったが、地方（10都市以外の7地区）は0.1%減と僅かに前年実績に届かず、5か月ぶりにマイナスに転じた。

商品別では、主要5品目のうち4品目で前年実績を超えた。二桁伸びを示した身のまわり品（11.1%増）は、ラグジュアリーブランドを中心に、バッグや財布、靴が好調だった。衣料品は、気温上昇による季節需要の高まりから初夏商材が動いた。化粧品はマスクを外す機会が増え、メイクアイテムやUVケアが好調だった他、インバウンド需要もあり高い伸びを示した（15.8%増）。食料品は、催事や手土産、歳時記需要から、菓子、惣菜が好調で、共に21か月連続でプラスとなった。これから本格化する中元商戦では、ライフスタイルの変化を受け、新たな顧客ニーズに即し、各社とも趣向を凝らした商品提案を行っている。

【要因】

- (1) 天候：気象庁発表「5月の天候」の特徴は以下のとおり（一部抜粋）
◇気温は、北日本で高かった。降水量は北日本太平洋側でかなり少なかった一方、西日本日本海側でかなり多かった。日照時間は高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、北・東日本日本海側と北・東・西日本太平洋側で多かった。
- (2) 営業日数増減 30.9日（前年同月比 ±0.0日）
- (3) 土・日・祝日の合計 11日（〃 日曜1日減）
- (4) 入店客数増減（回答店舗数で見える傾向値／前年同月比／有効回答数105店舗）
①増加した：55店、②変化なし：28店、③減少した：22店
- (5) 5月歳時記（GW、母の日）の売上（同上／有効回答数74店舗）
①増加した：24店、②変化なし：42店、③減少した：8店

全国百貨店 売上高速報 2023年5月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	411,120,889	100.0	6.3 (5.9)
10都市	309,792,569	75.4	8.5 (8.3)
札幌	11,070,807	2.7	5.6
仙台	5,343,062	1.3	-0.6
東京	120,548,531	29.3	8.0
横浜	25,688,729	6.2	-0.3
名古屋	28,922,413	7.0	9.1
京都	18,467,313	4.5	11.0
大阪	65,695,333	16.0	14.7
神戸	10,743,825	2.6	10.9
広島	6,558,418	1.6	-5.3 (-11.7)
福岡	16,754,138	4.1	11.0
10都市以外の地区	101,328,320	24.6	-0.1 (-1.0)
東北	4,001,341	1.0	-8.2
関東	45,275,538	11.0	-1.1 (-2.5)
中部	7,261,834	1.8	-1.6
近畿	15,251,553	3.7	3.4
中国	7,843,329	1.9	-1.6
四国	5,168,116	1.3	1.5
九州	16,526,609	4.0	3.0

注) 2023年2月より、北海道の1店舗を地区区分10都市の札幌に合算しております。

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	411,120,889	100.0	6.3 (5.9)
紳士服・洋品	23,668,843	5.8	3.7 (3.4)
婦人服・洋品	76,414,158	18.6	8.1 (7.8)
子供服・洋品	7,481,021	1.8	-4.1 (-4.5)
その他衣料品	6,522,164	1.6	-4.6 (-5.0)
衣 料 品	114,086,186	27.8	5.5 (5.2)
身のまわり品	69,179,143	16.8	11.1 (10.5)
化粧品	34,552,711	8.4	15.8 (15.4)
美術・宝飾・貴金属	37,967,875	9.2	0.9 (0.9)
その他雑貨	11,952,166	2.9	2.7 (2.3)
雑 貨	84,472,752	20.5	6.8 (6.6)
家 具	3,611,206	0.9	-3.9 (-4.5)
家 電	1,655,456	0.4	23.0 (23.0)
その他家庭用品	9,732,104	2.4	-2.4 (-2.7)
家 庭 用 品	14,998,766	3.6	-0.5 (-0.9)
生 鮮 食 品	17,591,276	4.3	1.7 (0.5)
菓 子	30,188,808	7.3	8.9 (8.5)
惣 菜	25,902,637	6.3	2.6 (2.3)
その他食料品	29,244,826	7.1	1.2 (0.6)
食 料 品	102,927,547	25.0	3.8 (3.2)
食 堂 喫 茶	10,609,049	2.6	10.6 (10.3)
サ ー ビ ス	4,124,018	1.0	-4.3 (-4.7)
そ の 他	10,723,428	2.6	17.4 (17.1)
商 品 券	5,788,514	1.4	-6.7 (-7.2)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 8.5% (店舗数調整後／20か月連続プラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -0.1% (店舗数調整後／5か月ぶりマイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
10都市	8.5	6.3	20か月連続プラス
札幌	5.6	0.2	15か月連続プラス
仙台	-0.6	-0.0	6か月ぶりマイナス
東京	8.0	2.3	21か月連続プラス
横浜	-0.3	-0.0	15か月ぶりマイナス
名古屋	9.1	0.6	20か月連続プラス
京都	11.0	0.5	20か月連続プラス
大阪	14.7	2.2	20か月連続プラス
神戸	10.9	0.3	15か月連続プラス
広島	-5.3	-0.1	5か月ぶりマイナス
福岡	11.0	0.4	20か月連続プラス
10都市以外の地区	-0.1	-0.0	5か月ぶりマイナス
東北	-8.2	-0.1	2か月ぶりマイナス*
関東	-1.1	-0.1	5か月ぶりマイナス
中部	-1.6	-0.0	5か月ぶりマイナス
近畿	3.4	0.1	6か月連続プラス
中国	-1.6	-0.0	5か月ぶりマイナス*
四国	1.5	0.0	2か月ぶりプラス
九州	3.0	0.1	5か月連続プラス

(注1) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

(注2) 2023年2月より、北海道の1店舗を地区区分10都市の札幌に合算した。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は家庭用品を除く4品目でプラスとなった。その他の品目は、婦人服・洋品が15か月連続、菓子、惣菜が21か月連続でプラスとなったほか、生鮮食品が3か月ぶりにプラスとなった一方、子供服・洋品が3か月連続、家具が2か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	6.3	—	15か月連続プラス
紳士服・洋品	3.7	0.2	6か月連続プラス
婦人服・洋品	8.1	1.5	15か月連続プラス
子供服・洋品	-4.1	-0.1	3か月連続マイナス
その他衣料品	-4.6	-0.1	2か月ぶりマイナス
衣料品	5.5	1.5	15か月連続プラス
身のまわり品	11.1	1.8	20か月連続プラス
化粧品	15.8	1.2	15か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	0.9	0.1	28か月連続プラス*
その他雑貨	2.7	0.1	14か月連続プラス*
雑貨	6.8	1.4	20か月連続プラス
家具	-3.9	-0.0	2か月連続マイナス
家電	23.0	0.1	8か月連続プラス
その他家庭用品	-2.4	-0.1	3か月連続マイナス
家庭用品	-0.5	-0.0	2か月連続マイナス
生鮮食品	1.7	0.1	3か月ぶりプラス*
菓子	8.9	0.6	21か月連続プラス*
惣菜	2.6	0.2	21か月連続プラス*
その他食料品	1.2	0.1	5か月連続プラス*
食料品	3.8	1.0	10か月連続プラス
食堂喫茶	10.6	0.3	15か月連続プラス
サービス	-4.3	-0.0	3か月連続マイナス
その他	17.4	0.4	14か月連続プラス
商品券	-6.7	-0.1	3か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

2023年5月 東京地区百貨店売上高概況

2023年6月23日

I. 概況

1. 売上高総額	1, 205億円余
2. 前年同月比(増減率)	8.0%(21か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭 の増減	店頭9.9%(91.3%):非店頭-9.0%(8.7%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店 (2023年4月対比±0店)
5. 総店舗面積	729,599㎡ (前年同月比:-8.4%)
6. 総従業員数	14,027人 (前年同月比:-6.6%)
7. 3か月移動平均値	10-12月 10.3%、11-1月 11.0%、12-2月 14.6%、 1-3月 17.2%、2-4月 14.5%、3-5月 10.7%

[参考] 2022年5月の売上高増減率は80.6%

【特徴】

- (1) 5月の東京地区は、売上高8.0%増、入店客数3.3%増と共にプラスとなった。コロナ5類移行を受けて外出傾向が一層拡大し、GWの来街者増、免税売上の伸長等が売上増に寄与した。2019年比では売上高は1.6%減と前月より1.4ポイント改善し、免税売上を除く国内市場も0.8%増と、前月に続きコロナ前を上回る実績となった。
- (2) 商品別では、主要5品目全てプラスとなった。二桁増を記録した主力の衣料品(10.9%増/20か月連続)は、外出気運の高まりからビジネス、カジュアル共に好調に推移し、中旬の気温上昇から初夏商材も良く動いた。紳士服ではジャケット、ブルゾン等の羽織物、婦人服ではブラウスやカットソー、パンツが好調だった。
- (3) 身のまわり品(15.6%増/21か月連続)は、ラグジュアリーブランドの増勢が依然続いている他、外出需要から靴やバッグも好調に推移した。婦人靴ではサンダルやレインシューズが良く動いた。また、脱マスク需要からイヤリングやピアス、ネックレス等のアクセサリが好調だった。雑貨(7.0%増/21か月連続)は、引き続き化粧品がリップやベースメイクアイテム等の好調で二桁増となったが、美術・宝飾・貴金属が高額時計の入荷減による品薄や前年値上げ前の駆け込みの反動等もあり、28か月ぶりにマイナスとなった。
- (4) 食料品(0.8%増/2か月ぶり)は、菓子が手土産やギフトニーズから引き続き好調を維持した。特に母の日では、直前にケーキがよく動き、家族がリアルに集まりお祝いする傾向が見られた。
- (5) 6月中間段階の商況は、前年比5.2%増(6/15時点)で推移している。コロナ前の2019年比では0.1%減と、ほぼ同水準まで回復してきた。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日(前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
 - ①増加した:16店、②変化なし:0店、③減少した:2店
- (3) 5月歳時記(GW、母の日)の売上(同上/有効回答数13店舗)
 - ①増加した:7店、②変化なし:5店、③減少した:1店

東京地区百貨店 売上高速報 2023年5月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	120,548,531	100.0	8.0
紳士服・洋品	9,266,858	7.7	10.7
婦人服・洋品	19,288,109	16.0	13.7
子供服・洋品	2,106,242	1.7	4.5
その他衣料品	1,487,141	1.2	-8.6
衣 料 品	32,148,350	26.7	10.9
身のまわり品	21,674,897	18.0	15.6
化粧品	10,556,106	8.8	19.4
美術・宝飾・貴金属	13,545,022	11.2	-1.2
その他雑貨	4,022,368	3.3	7.5
雑 貨	28,123,496	23.3	7.0
家 具	1,139,352	0.9	-8.1
家 電	1,359,137	1.1	29.8
その他家庭用品	2,783,485	2.3	-4.3
家 庭 用 品	5,281,974	4.4	1.7
生 鮮 食 品	3,375,566	2.8	-0.2
菓 子	7,969,669	6.6	7.9
惣 菜	6,301,284	5.2	-0.4
その他食料品	8,673,723	7.2	-3.8
食 料 品	26,320,242	21.8	0.8
食 堂 喫 茶	2,410,611	2.0	9.5
サ ー ビ ス	2,106,900	1.7	1.5
そ の 他	2,482,061	2.1	20.8

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	1,405,017 千円	-9.9
従 業 員 数	14,027 人	-6.6
店 舗 面 積	729,599 m ²	-8.4

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は全てプラスとなり、衣料品、身のまわり品は二桁増となった。その他の品目は、化粧品が21か月連続、菓子が27か月連続でプラスとなった一方、美術・宝飾・貴金属が28か月ぶり、生鮮食品が8か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	8.0	—	21か月連続プラス
紳士服・洋品	10.7	0.8	19か月連続プラス
婦人服・洋品	13.7	2.1	21か月連続プラス
子供服・洋品	4.5	0.1	11か月連続プラス
その他衣料品	-8.6	-0.1	2か月ぶりマイナス
衣料品	10.9	2.8	20か月連続プラス
身のまわり品	15.6	2.6	21か月連続プラス
化粧品	19.4	1.5	21か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-1.2	-0.1	28か月ぶりマイナス*
その他雑貨	7.5	0.3	15か月連続プラス*
雑貨	7.0	1.6	21か月連続プラス
家具	-8.1	-0.1	2か月連続マイナス
家電	29.8	0.3	8か月連続プラス
その他家庭用品	-4.3	-0.1	2か月連続マイナス
家庭用品	1.7	0.1	5か月連続プラス
生鮮食品	-0.2	-0.0	8か月連続マイナス*
菓子	7.9	0.5	27か月連続プラス*
惣菜	-0.4	-0.0	3か月連続マイナス*
その他食料品	-3.8	-0.3	3か月連続マイナス*
食料品	0.8	0.2	2か月ぶりプラス
食堂喫茶	9.5	0.2	15か月連続プラス
サービス	1.5	0.0	3か月ぶりプラス
その他	20.8	0.4	4か月連続プラス
商品券	-9.9	-0.1	3か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>